

# 春風秋霜

10月号

令和2年10月1日  
島田市教育委員会より  
教育長 濱田和彦

春風をもって人に接し、秋霜をもって自らを慎む 佐藤一斎

## 1 授業について

教育委員の学校訪問において、様々な授業を見させていただきます。子供たちが夢中になって話し合いや各種活動に取り組む様子は、見ているだけでうれしくなります。ちょっと面白い4年生の授業を見たので紹介します。

その授業は、「運動場に降った雨はどこに行くのか」を話し合っていました。降った雨は地下に沁み込む、空気中に蒸発する、側溝を伝わって川に流れるなどが答えになります。もし、子供の中から、「雨の降った運動場に入ると靴下や靴が濡れてしまうから、靴下に入る雨がある」との意見が出たら皆さんならどうしますか。

この意見は、水の流れの行き先からすると、本筋から外れた意見ですから、その量に目を向けさせれば直ぐに主題に迫る話し合いになったでしょう。しかし、担任はこの意見を取り上げたので、数人の子供もこれに関わる経験を話していました。

発言を取り上げる時、教科の本質以外にも大切にしなければならないことがあります。あまり発表しない子供なら意図的に取り上げることもあります。学級経営上必要と考え発表させる場合もあります。このクラスの子供たちは互いの意見を大切にしていましたから、子供の意見を大切にす学級経営がいつも行われているのだらうと思いました。

私は、自分が予想しなかった意見や、体験に基づいた意見をできるだけ大切にしたいと思ってきました。そのため、主題から外れる授業も数多くありました。しかし、コロナ禍では効率的な授業も求められます。教科の本質を第一に、個々の意見や様々な配慮とともに効率も意識した授業をお願いします。

## 2 9月議会一般質問から

4人の議員から新型コロナウイルス感染症に関わる質問が出されました。子供たちや教職員への影響を心配しての質問でした。

3密回避については、静岡県は35人学級を国に先行して行っている上、島田市ではオープンスペースの学校も多く、他県や他市に比べると3密は回避できていると答えています。学校訪問をすると特別教室を活用した学校もありました。換気や消毒にも配慮するなど各学校の工夫に感謝しています。

また、コロナ禍において統合に影響は出ないかという質問もありましたが、見直した交流計画等により、統合は予定通り行うと答えています。

不登校についての質問では、昨年度は小学校約40人、中学校約100人の不登校がいたと、近年の増加傾向を答えています。不登校は島田市だけでなく県下的な課題になっています。いくつかの学校において大きく改善しているので、早目の対応と組織的な対応が大切だと思います。

地域学校協働活動推進員の役割についての質問には、学校と地域とをつなぐコーディネ

ーターと答えています。今後、子供の学習支援や家庭教育支援など、地域ぐるみで子供たちの学びや成長が支援できたらと考えています。

統合関係では、スクールバス3台の購入が認められたので、来年4月からの北中学校と湯日小学校の通学の足は確保できることとなりました。

### 3 学校便りから

金谷中学校の学校便り（8月号）に、臨時休校中の子供たちの感想が記載されていました。「生まれて初めてゲームに飽きた」「毎日夕食を作ったので、母の大変さが分かり、感謝の気持ちが生まれた」「家の中でやることがなくなってしまった。でも、もっと勉強しようという気持ちにはなれなかった。やっと学校の大切さに気付いた」など

当たり前のことを失ったからこそ気づくことがあります。長期の休校により、学校で学ぶ大切さや友達のありがたさ、家族への感謝などに気付いた子供は多いと思います。大切なことは、休校中のこれらの思いを忘れないことです。また、今後の生活にどのように生かすかが問われます。そのことを思い出させる働きかけをお願いします。

## 肘かけ椅子

鈴木 利弘 学校教育課長

### 「一期一会」

土曜の夜、BS放送で映画「男はつらいよ」を観た。蓬莱橋や大井川鐵道など馴染み深い光景の中を寅さんが一期一会の旅をする。映画の中盤、マドンナとして登場した大原麗子さんを見た瞬間、私は35年以上前の出来事を思い出した。

1984年の春、東京の武蔵小金井にある中学校で私は教育実習をしていた。中学校が全国的に荒れた時代で実習校も例外ではなかった。給食時、各班を回って会食していたのだが、男子とは自然に会話が弾むのに、女子は話しかけても無反応だった。それが毎日続き、実習も後半にさしかかった頃のことだった。

学校帰りに武蔵小金井駅に向かって歩いていると、商店街に人だかりが見えた。近づくと、クラスの女子生徒2人もいた。「何かあるの？」と彼女たちに尋ねると「ドラマ撮影していた女優さんが喫茶店で休憩しているみたい。」と答えた。見ると、大原麗子さんが店内で珈琲を飲んでいた。大原さんを遠目に見ながら、彼女たちは学校に居る時とは見違えるような明るい表情を見せていた。私が「クラスの女子はおとなしいね。」と言うと、彼女たちは「先生、全然わかってない。」と呆れ、「私たちがちょっと掃除をしていないだけで、先生は箒を持って追っかけてくるでしょ。だから、女子は先生と話そうとしないんだよ。」と教えてくれた。その後も会話は弾み、色々な話をした。

この日以来、クラスの女子ともコミュニケーションがうまくとれるようになり、実習を感動の中で終えることができた。未熟な教育実習生時代の一期一会を思い出すとともに、これまでの一期一会の積み重ねの中に今があることに感謝した。